

# 大雪に伴う被害防止対策について

気象災害対策  
令和4年2月15日  
中央普及支援センター

2月15日に金沢地方気象台から「高波と大雪及び突風に関する石川県気象情報 第2号」が発表されました。

15日から北陸地方の上空約5000メートルに氷点下33度以下の寒気が流れ込み、16日から17日にかけて、石川県では大雪となるおそれがあります。

また、2月14日に発表された「低温と大雪に関する早期天候情報」によると北陸地方の気温は、向こう2週間にかけて低い日が多く、21日頃からは降雪量が平年よりかなり多くなる見込みです。

今後、気象台が発表する気象情報や注意報・警報に留意するとともに、次の事項に注意して施設などへの被害防止に努めて下さい。

## 〔農作業事故防止〕

除雪作業は複数人で行うなど、作業時の安全確保を最優先とし事故防止に努める。

## 〔パイプハウス〕

- (1) 使用していないパイプハウスは、ビニールを必ず外しておく。
- (2) ハウスは筋交い、中柱等で補強する。その際、ハウスが降雪後にねじれないように補強は左右対称とする。
- (3) ハウスサイドへの積雪を防ぐために、あらかじめハウスとハウスの間にかん水チューブを設置、または排水溝にビニールを敷くなどして、降雪始めから水をかけ流す。
- (4) ハウスの隣棟間隔が狭いとき（間口の1/2以下）は、1棟おきにビニールフィルムをはずし、雪の堆積場とする。
- (5) ハウスサイドに堆積した雪は早期に除雪又は融雪する。  
融雪するため、できるだけ高い位置に散水パイプを設置する。散水施設を設置できない場合は、かん水チューブを堆積した雪の上にセットできるように準備する。

- (6) 強風の場合にはハウスの戸締まりを徹底し、ハウス内への吹き込みを防止するとともに、ビニールの破損箇所の点検補修を行う。
- (7) フルオープンハウス等でビニールを天パイプ部分に巻き上げ収納してある場合は、強風でビニールが広がらないよう結束を確認する。
- (8) ハウス上の積雪が滑落しない場合は、手作業で強制的に滑落させ、天井に雪を乗せたままにしない（ハウス内を4℃以上にすると滑落する事が多い）。
- (9) 急激な降雪により積雪が1メートルを超えるような緊急時には、左右対称にビニールを切ってハウスの倒壊を防止する。  
※園芸施設共済に加入している場合は、切断前に農業共済組合に連絡する。

#### [表類]

##### (1) 排水溝の点検

融雪後、圃場巡回を実施し、地表面の排水が速やかに行われているか排水溝の点検を行い、必要があれば排水溝の手直しや追加を行う。

#### [野菜・花き]

##### 【事前対策】

- (1) 積雪により、ほ場内に入れたい事も考慮し、収穫期を迎えている品目（ねぎ、こまつな、フリージア等）については、降雪前に速やかに収穫する。
- (2) 二重トンネルや被覆資材を利用して熱の損失を防ぐ。出入口やビニールの継ぎ目、破損か所の点検補修を行う。
- (3) フリージアは、3℃以下にならない様、暖房機を設置し、凍霜害を防止する。使用時は不完全燃焼等に注意する。
- (4) 育苗中の品目（トマト、きゅうりなど）は、各生育ステージでの適温管理に努める。
- (5) 過湿による病害や霜害を防ぐため、循環扇を稼働させるほか、積極的に換気し、湿度の低下に努める。

野菜の低温障害一覧

品目	障害の種類	発現部位	発生条件	対策として考えられる事項
トマト	窓あき果 条斑果 チャック果	果実	低温、多窒素、多水分、Caの吸収阻害	適温管理 少窒素 適正水分管理 品種選定 開花時のCa散布(0.14%)
キュウリ	心止まり カンザシ	生長部	低温、短日、過剰施肥	適温管理 長日、適正養水分管理
スイカ	心止まり	生長部	低温、過剰施肥	適温管理
イチゴ	奇形果	果実	受精不能	訪花昆虫の活動温度確保

【事後対策】

- (1) 施設野菜・花きでは、積雪によりハウス内が長期間密閉されない様、早めにハウスサイドの除雪を行い、換気できるようにする。ハウスサイドの融雪に時間を要する場合、出入口を除雪し、換気などに努める。
- (2) ハウス内や育苗温床のトンネル内の温湿度が急激に上昇しないようハウスサイドを開放する。なお、育苗温床のトンネルは、ハウスや施設内が15℃以上になってから換気を開始する。
- (3) 草勢の低下や生育の遅延が見られる場合、液肥の葉面散布を行うほか、生育に応じて速効性肥料による追肥を行う。また、凍霜害などで傷んだ部位から灰色かび病などが発生しやすくなるため、必要に応じて、薬剤の散布を行う。
- (4) 生育の回復が望めない場合は、再度、は種や定植を実施する。また、は種適期を逸する場合は他の作物への転換を図る。

〔果樹〕

- (1) 樹体や果樹棚を支柱等で補強する。特に、粗剪定が終了していない園や主枝や亜主枝が長大化している園では、雪の重みによる枝裂けや棚の倒壊が起きやすいので対策を徹底する。
- (2) 冠雪が50cmを越えると枝折れや枝裂け等の被害が出やすいので、降雪量を見ながら着雪の払い落としを行う。
- (3) ドカ雪の場合は、果樹棚等の施設への積雪状況に注意し、必要に応じて早急に雪下ろしを実施する。

〔畜産〕

- (1) 畜舎等の施設点検を行い、老朽化等により倒壊の恐れがある場合は必要に応じて補強等を行うとともに、屋根の雪下ろしを行う。畜舎の周囲では、飼料運搬車等の車両通行を確保するための除雪に努める。

- (2) 停電等緊急時に備え、自家発電機の準備、点検を行う。また、交通の遮断等非常事態に備えて、飼料の在庫確認と購入手当を早めに行い、粗飼料なども含めて給与する飼料が不足、急変しないよう留意する。
- (3) 寒さにより水道管が凍結して水が出なくなったり破裂することがあることから、水道管や蛇口などには、保温材や凍結防止帯を巻く、水を少し出す等により水道管の凍結を防止する。
- (4) 子畜や老畜・病畜については観察の強化に努め、体温維持のため飼料の増給や保温対策を行う。
- (5) 畜舎の換気が不十分とならないよう、換気扇、窓の開閉をこまめに実施して、空気の汚染による生産性の低下防止に努める。

なお、雪害に対する被害防止対策については、雪害対策マニュアル（平成30年11月発行(令和2年2月改定)、<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/noken/kisyousaigai/documents/020201.pdf>)を参考にして下さい。

## 高波と大雪及び突風に関する石川県気象情報 第2号

令和4年2月15日05時26分 金沢地方気象台発表

石川県では、16日昼過ぎから17日にかけて高波に警戒し、16日から17日にかけて大雪による交通障害や農業施設等への被害に注意・警戒してください。また、16日頃にかけて落雷や竜巻などの激しい突風、ひょうに注意してください。

### [要因]

15日から17日にかけて、低気圧が発達しながら日本海から北陸付近に進む見込みです。また、北陸地方の上空約5000メートルには氷点下33度以下の寒気が流れ込むため、大気の状態が非常に不安定となるでしょう。

### [波の予想]

石川県では、15日夜遅くからしけとなり、16日夜遅くから17日にかけて大しけとなる所があるでしょう。

15日に予想される波の高さは、

加賀 3メートル

能登 4メートル

16日に予想される波の高さは、

加賀 6メートル

能登 5メートル うねりを伴う

17日に予想される波の高さは、

石川県 6から8メートル うねりを伴う  
の見込みです。

### [雪の予想]

石川県では、16日から17日にかけて、平地も含め大雪となる所がある見込みです。

15日6時から16日6時までに予想される24時間降雪量は、いずれも多い所で、

加賀平地 10センチ

山地 40センチ

能登平地 2センチ

山地 5センチ

その後、16日6時から17日6時までに予想される24時間降雪量は、いずれも多い所で、

加賀平地 20から40センチ

山地 60から80センチ

能登平地 20から40センチ

山地 40から60センチ

その後、17日6時から18日6時までに予想される24時間降雪量は、いずれも多い所で、

石川県 平地 20から40センチ

山地 40から60センチ

の見込みです。

寒気が予想よりも強まった場合は、16日から17日にかけて警報級の大雪となるおそれがあります。

#### [防災事項]

石川県では、16日昼過ぎから17日にかけて高波に警戒し、16日から17日にかけて大雪による交通障害や農業施設等への被害に注意・警戒してください。

雪による視程障害、雪を伴った強風、路面の凍結、電線や樹木への着雪、なだれに注意してください。

また、16日頃にかけて落雷や竜巻などの激しい突風に注意してください。

屋外活動に十分注意し、発達した積乱雲の近づく兆しがある場合には建物内に移動するなど、安全確保に努めてください。ひょうの降るおそれもありますので、農作物等の管理にも注意してください。

#### [特記事項]

今後発表する警報、注意報、竜巻注意情報、気象情報等に留意してください。

#### [情報の発表予定]

次の「高波と大雪及び突風に関する石川県気象情報」は、15日17時頃に発表する予定です。